

陰から見つめる眼はいつもやさしかった

大嶽 恒雄さん



大嶽恒夫氏は、中学時代の同級生で東邦ガスに勤めていた。

名古屋大学の野球部で捕手、その後同大学の監督をつとめていた。

人柄が穏やかで何か気が合うので食事などを共にして意見を交換しており、ペスを中心としたクラブCIAには講師として「高齢化社会における企業の人材育成」のテーマで説話をしてくれた。

ペス建築環境設計は設備設計を主たる業務としていたので、ガス会社との情報交換は必然に求められるものであった。

彼は人事部長から常務取締役となり、東邦ガスニューヨーク事務所開設の折には格別の配慮として、ピエール（ホテル）でのオープニングパーティーにペスインターナショナルとして招待してくれた。

その後、現地ニューヨーク事務所の佐伯卓所長とは親しく、アメリカのガス事業での情報提供の機会を持ち、いつも会食のもてなしをうけていた。

佐伯氏は後年、東邦ガス本社社長、会長を経て引退されている。

大嶽氏の最後は、東邦ガス野球部が都市対抗戦の東京後楽園球場での試合で初勝利した折の名古屋での祝賀会からの帰宅の途中で気分が悪くなり、自宅で亡くなってしまったのが本当に口惜しく思われた。彼に次期社長の器を期待していた同級生にとって、運命の厳しさを思い知るようになった。

前に勤めていた会社と東邦ガスは各々に株を所有していたので、良好な関係が続いており、独立後のPESでも業務上の発展に寄与してくれていた。

そして、「OHC計画」「名古屋東区東桜1丁目の地域冷暖房ケーススタディ」など地域熱供給計画を受託できたのも、大嶽氏の陰からの東邦ガス社内への口添えも、良い評価につながっていたと思われる。



佐伯 卓氏



友情

